

南幌町長 大 崎 貞 二 様

南幌町監査委員 白 倉 敏 美
南幌町監査委員 加 藤 真 悟

令和4年度南幌町病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和4年度南幌町病院事業会計決算書について意見を次のとおり提出します。

記

1 審査の対象

令和4年度南幌町病院事業会計決算の事業報告書、事業決算書、財務諸表並びに決算書作成の基礎とする関係書類及び証拠書類などを対象にした。

- (1) 令和4年度南幌町病院事業決算報告書
- (2) 令和4年度南幌町病院事業損益計算書
- (3) 令和4年度南幌町病院事業貸借対照表
- (4) 令和4年度南幌町病院事業剰余金計算書
- (5) 令和4年度南幌町病院事業欠損金処理計算書
- (6) その他附属書類

2 審査の期間及び場所

- (1) 令和5年8月2日（1日間）
- (2) 町立南幌病院3階会議室

3 審査の手続き

町長より付された令和4年度南幌町病院事業会計の決算審査にあたって、南幌町監査基準に基づき、決算報告書、財務諸表及び附属書類が関係法令に基づき作成され、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか検証するため、担当職員から内容を聞き取るとともに、会計帳票、証拠書類との照合を行い、予算の適正かつ効率的に執行、運営がなされたかを検証して審査を実施した。

なお、千円単位で記載したものは四捨五入のため内訳と合計が一致しない場合がある。

4 審査の内容

(1) 業務の概要について

①入院・外来患者数

延患者数は、入院患者が 14,632 人と予算 14,600 人を 32 人上回り、達成率 100.2%、前年比 600 人、4.3%の増となった。

外来患者は 15,651 人と予算 14,590 人を 1,051 人上回り、達成率 107.3%、前年比では 2,282 人、17.1%の増となった。

外来患者に含まれる訪問診療件数は延べ 601 人と前年度の 588 人に比べ 13 人、2.2% 上回った。医療連携による受診、転院、検査を含めた紹介件数は 73 件と前年度の 152 件に比べ△79 件、52.0%の減少、他院からの転院依頼件数は 81 件と前年度の 102 件に比べ△21 件、20.9%の減少、受入実績は 71 件と、前年度の 85 件に比べ△14 件、16.5%減少した。

合計では 30,283 人と予算延患者数 29,190 人に対し 1,093 人上回り、達成率 103.7% となった。

【表 1 患者数の動向】

(単位：人)

項 目		令 和 4 年 度				令和 3 年度		
		予 算	実 績	達成率	前 年 比		実 績	前年比 増減数
					増減数	増減率		
入 院	一 般	14,600	14,632	100.2%	600	4.3%	14,032	4,383
	療 養	—	—	—	—	—	—	△2,059
	小計	14,600	14,632	100.2%	600	4.3%	14,032	2,324
外 来	内 科	12,150	13,238	109.0%	1,697	14.7%	11,541	126
	小児科	1,225	1,468	119.8%	626	74.3%	842	288
	眼 科	1,215	945	77.8%	△41	△4.2%	986	24
	小計	14,590	15,651	107.3%	2,282	17.1%	13,369	438
合 計		29,190	30,283	103.7%	2,882	10.5%	27,401	2,762
内科患者数		26,750	27,870	104.2%	2,297	9.0%	25,573	2,566

※入院患者は全て内科の患者

②診療科別延患者数

診療科別に延患者数を見ると、入院、外来を合わせて内科は 27,870 人と予算比 1,120 人、達成率 104.2%、前年比 2,297 人、9.0%増加した。

小児科は 1,468 人となり、前年比 626 人、74.3%増加した。眼科は 1,215 人、前年比 △41 人、4.2%減少した。

③ 医業利益（医業収支）の状況と医業収支比率

本年度の医業収支を見ると収支差は赤字で△126,390千円と前年比では赤字幅が61,392千円減少した。

医業収益を医業費用で除した医業収支比率は、81.7%と7.9%改善した。医業収支比率は、医業に投下した費用を医業収益で収入した割合を示している。

医業費用は691,203千円と△前年比26,135千円、3.6%減少し、医業収益が564,813千円と、前年比35,257千円、6.7%の増加であったことから、医業収支比率の改善につながった。

【表2 医業収支の推移】

(単位:千円)

年度 項目	令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度
	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差
医業収支	△126,390	赤字減少 61,392	△187,782	赤字減少 57,358	△245,140	赤字減少 67,087	△312,227
医業収支比率	81.7%	7.9%	73.8%	11.0%	62.8%	13.7%	49.1%

④ 年度別病床利用率の推移

町立南幌病院は令和2年8月に、一般病棟26床、療養病棟54床の合計80床から、一般病棟のみ60床へ病床数の削減と同年10月に病棟機能転換を行っており、一般病床の利用率は、本年度66.8%と前年度の64.1%を上回っている。

病床利用率は医業収入の増減と経営収支に大きく影響し、町立南幌病院の収益確保に重要なことから、地域医療連携室を中心に関係機関との医療連携強化を行うことで病床利用率を上げることが重要である。

【表3 年度別病床利用率の推移】

(単位: %、床)

区分	令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
利用率	66.8	2.7	64.1	16.0	48.1	10.6	37.5	1.5
延病床数	21,900		21,900		24,340		29,280	

⑤ 診療単価について

本年度の一人1日当たりの診療報酬は入院で22,265円と前年比161円、0.7%の増加、外来で9,876円と前年比831円、9.2%増加した。令和2年度の病棟機能転換以降、一人当たりの入院単価が上昇している。

外来では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うPCR検査や、診療単価の高い訪問診療の増加等により単価が上昇した。

(2) 収益的収支について

【表4 比較収支計算書】

(単位：千円)

科 目		令和4年度					令和3年度 実績
		予算現額	決算額	達成率	前年比		
					増減額	増減率	
医業収益	入院収益	323,350	325,785	100.8%	15,621	5.0%	310,164
	外来収益	142,600	154,572	108.4%	33,649	27.8%	120,923
	その他医業収益	73,916	84,456	114.3%	△14,013	△14.2%	98,469
	合計	539,866	564,813	104.6%	35,257	6.7%	529,556
医業費用	給与費	439,242	419,842	95.6%	△39,023	△8.5%	458,865
	材料費	51,792	44,009	85.0%	3,954	9.9%	40,055
	経費	182,964	170,676	93.3%	8,292	5.1%	162,384
	減価償却費	55,732	55,716	100.0%	3,112	5.9%	52,604
	資産減耗費	1,300	230	17.7%	△2,891	△92.6%	3,121
	研究研修費	1,700	730	42.9%	421	136.2%	309
	合計	732,730	691,203	94.3%	△26,135	△3.6%	717,338
医業利益		△192,864	△126,390	65.5%	61,392	32.7%	△187,782
医業外収益	受取利息及び配当金	1	3	300.0%	2	200.0%	1
	患者外給食収益	1,280	852	66.6%	△346	△28.9%	1,198
	他会計負担金	17	17	100.0%	2	13.3%	15
	他会計繰入金	215,758	215,758	100.0%	△25,625	△10.6%	241,383
	その他医業外収益	5,897	6,950	117.9%	665	10.6%	6,285
	長期前受金戻入	20,227	20,227	100.0%	477	2.4%	19,750
	補助金	0	0	—	△6,485	皆減	6,485
	合計	243,180	243,807	100.3%	△31,310	△11.4%	275,117
医業外費用	支払利息及び企業債取扱諸費	296	25	8.4%	4	19.0%	21
	患者外給食費用	1,306	867	66.4%	△304	△26.0%	1,171
	雑損失	2,300	1,961	85.3%	△608	△23.7%	2,569
	合計	3,902	2,853	73.1%	△908	△24.1%	3,761
経常利益		46,414	114,564	246.8%	30,990	37.1%	83,574
特別利益		0	0	—	△20	皆減	20
特別損失		1	103	10,300.0%	103	皆増	0
当年度純利益		46,413	114,461	246.6%	30,867	36.9%	83,594

医業収益は564,813千円と予算現額539,866千円に対し24,947千円、達成率104.6%、前年比35,257千円、6.7%の増収、うち入院収益は325,785千円と予算現額323,350千円に対し2,435千円、達成率100.8%、前年比15,621千円、5.0%増収した。

外来収益は154,572千円と予算現額142,600千円に対し11,972千円、達成率108.4%、前年比33,649千円、27.8%増収し、医業収益の8割以上を占める入院・外来収益は、予算現額465,950千円に対し480,357千円と14,407千円、達成率103.1%、前年度実績431,087千円に比べ49,270千円、11.4%の増収となった。

その他医業収益は84,456千円と予算現額73,916千円に対し10,540千円、達成率114.2%、前年比△14,013千円、14.2%減少した。一般会計からの繰入普通交付税(救急告示分)36,294千円と特別交付税(小児救急医療提供病院)11,375千円は前年と同額となった。

医業費用合計691,203千円は予算現額比△41,527千円、達成率94.3%、前年比△26,135千円、3.6%減少している。

給与費は419,842千円と達成率95.6%、前年比△39,023千円、8.5%減少した。常勤医3名体制により、1名分の医師給が減少したことによる。

材料費は44,009千円と達成率85.0%、発熱外来の患者数や入院患者数の増加などに伴い前年比3,954千円、9.9%増加した。

経費は170,676千円と達成率93.3%、院内の施設機械等の修繕費や光熱水費、燃料費などの増加に伴い前年比8,292千円、5.1%増加した。

減価償却費は、医療機器等の取得により55,716千円と前年比3,112千円、5.9%増加、資産減耗費は医療機器更新等による資産の除去に58千円及び使用期限切れ等による薬品類の棚卸資産除去費172千円の支出により230千円と前年比△2,891千円、92.6%減少した。

この結果、医業利益は予算現額△192,864千円に対し決算額△126,390千円と予算比66,474千円、前年度の△187,782千円に比べ61,392千円、32.7%改善している。

医業外収益243,807千円は予算現額に対し達成率100.3%、前年比11.4%の減少となっている。うち他会計繰入金215,758千円の内訳は、普通交付税(病床分)49,065千円、特別交付税等100,446千円(不採算地区88,820千円、医師派遣分1,448千円、基礎年金拠出分9,678千円、経営強化プラン500千円)に加え、児童手当2,260千円、リハビリテーション医療に要する経費8,410千円、医師確保対策25,346千円、資金不足に伴う一般会計繰入金30,000千円、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金231千円を一般会計を経由して受入れ、前年比△25,625千円、10.6%の減少となった。長期前受金戻入20,227千円は、過去に一般会計等から受入れた補助金を収益に振替え、減価償却費の財源となっているもので、前年度の医療機器購入により前年比477千円、2.4%増加した。補助金は、前年度計上の新型コロナウイルス感染症対策に伴う補助金の減少に伴い、前年比△6,485千円の減少となった。

医業外費用2,853千円は予算現額に対し△1,049千円、達成率73.1%、消費税納付分の減少により前年比△608千円、23.7%減少した。

以上の結果、本年度の経常利益は114,564千円と前年比30,990千円改善した。

特別損失は、不能欠損処理に伴う過年度損益修正損 103 千円を計上し、当該年度純利益は 114,461 千円となった。

(3) 資本的収支について

【表5 資本的収支の明細】

(単位：千円)

区 分		令 和 4 年 度			令 和 3 年 度	令 和 2 年 度
		決 算 額	前 年 比			
			増 減 額	増 減 率		
収 入	出 資 金	23,216	1,468	6.8%	21,748	22,281
	繰 入 金	740	△2,197	△74.8%	2,937	78,765
	企 業 債	9,500	△18,300	△65.8%	27,800	25,000
	補 助 金	0	△935	皆減	935	2,745
	収 入 合 計	33,456	△19,964	△37.4%	53,420	128,791
支 出	建 設 改 良 費	10,412	△21,387	△67.3%	31,799	109,146
	企 業 債 償 還 金	34,824	2,204	6.8%	32,620	33,421
	支 出 合 計	45,236	△19,183	△29.8%	64,419	142,567
収 支 差		△11,780	△781	△7.1%	△10,999	△13,776

資本的支出では、除細動器 1,084 千円、バリアフリースケール 319 千円、輸液ポンプ 264 千円、高圧受変電設備改修工事 8,745 千円の実施などの固定資産の取得に建設改良費として合計 10,412 千円及び企業債償還金 34,824 千円、合計 45,236 千円を支出している。

資本的収入は企業債発行 9,500 千円のほか、一般会計からの企業債償還元金相当額 23,216 千円を出資金として、更に国保会計からの医療機器購入補助金 740 千円を受入れ、合計 33,456 千円となった。

この結果、現金の出入りを伴う資本的収支差額は△11,780 千円となった。

これに当年度減価償却費 55,716 千円など現金支出の伴わない費用に対し損益勘定留保資金を充てている。

(4) 財務について

本年度病院事業会計の財務規模は 1,021,582 千円と前年比 81,193 千円、8.6%増加している。

①資産の部（運用）

資産勘定では、固定資産の正味残高は 581,385 千円と前年比△45,363 千円、7.2%減少した。

流動資産の 126,556 千円、40.4%の増加は、現金・預金が前年比 127,983 千円 55.9%と大幅に増加したため、これは、医業収益が改善していることが要因である。

【表6 比較貸借対照表（資産）】

(単位：千円)

区 分		令 和 4 年 度 末				令和3年度	
		決 算 額	構 成 比	前 年 比		決 算 額	構 成 比
				増減額	増減率		
固 定 資 産	土 地	13,454	1.3%	0	0.0%	13,454	1.4%
	減価償却資産	1,970,163	192.9%	9,245	0.5%	1,960,918	208.5%
	減価償却累計額	△1,402,385	△137.3%	△54,608	△4.1%	△1,347,777	△143.3%
	減価償却資産小計	567,778	55.6%	△45,363	△7.4%	613,141	65.2%
	無形固定資産	153	0.0%	0	0.0%	153	0.0%
	固定資産計	581,385	56.9%	△45,363	△7.2%	626,748	66.6%
流 動 資 産	現 金 ・ 預 金	357,099	35.0%	127,983	55.9%	229,116	24.4%
	未 収 金	81,531	8.0%	△1,380	△1.7%	82,911	8.8%
	貯 蔵 品	1,567	0.1%	△47	△2.9%	1,614	0.2%
	流動資産計	440,197	43.1%	126,556	40.4%	313,641	33.4%
資 産 合 計		1,021,582	100.0%	81,193	8.6%	940,389	100.0%

②有形固定資産の状況

本年度末の有形固定資産残高は土地を含め1,983,617千円と前年比9,245千円増加している。減価償却累計額1,402,385千円は前年比54,608千円の増加であり、年度末の減価償却資産に対する償却率は70.7%となっている。

【表7 有形固定資産の明細】

(単位：千円)

区 分	令和3年度 末現在高	令 和 4 年 度 末				
		増加額	減少額	年度末 現在高	減価償却 累計額	年度末償 却未済高
土 地	13,454			13,454	0	13,454
建 物	1,587,785	8,745		1,596,530	1,143,638	452,892
構 築 物	66,940			66,940	63,593	3,347
器 械 ・ 備 品	303,601	1,666	1,166	304,101	194,379	109,722
車 両	2,592			2,592	775	1,817
合 計	1,974,372	10,411	1,166	1,983,617	1,402,385	581,232

③負債・資本の部（調達）

負債勘定では、固定負債で新規に病院整備事業債9,500千円を発行したが、翌年度償還分40,974千円を流動負債の部に振替えたため、31,474千円減少した。

病院整備事業債は本年度に9,500千円を発行し、前年度末残高202,511千円（固定負債167,688千円、流動負債34,823千円）に対し34,823千円を償還して19,073千円減少し残高は177,188千円（固定負債136,214千円、流動負債40,974千円）となった。

流動負債は、負債について決算日の翌日から起算して1年以内支払分を流動負債、1

年超支払分を固定負債に区分する1年会計基準により、令和4年度の償還予定額40,974千円を固定負債から振替え、企業債残高が40,974千円と6,151千円の増加、未払金が41,250千円と△8,384千円の減少、職員手当に係る賞与引当金及び法定福利費引当金が27,795千円と△1,479千円減少したことから113,096千円と前年比△5,522千円、4.7%減少した。

繰延収益は固定資産取得に伴い、過去に受入れた一般会計等からの補助金20,227千円を長期前受金戻入に計上し減価償却費の財源に充て、新たに20,996千円の補助金を受け173,170千円と前年比△19,487千円、10.1%減少した。

資本の部では繰入資本金が1,097,249千円と一般会計から22,316千円の繰入れにより増加したほかに異動はなく、当年度純利益が114,461千円となったことから当年度末未処分利益剰余金（累積欠損金）は△624,665千円となり資本合計は599,103千円となった。

【表8 比較貸借対照表（調達）】

（単位：千円）

区 分		令 和 4 年 度 末				令和3年度末	
		決算額	構成比	前年比		決算額	構成比
				増減額	増減率		
負 債 の 部	企 業 債	136,214	13.3%	△31,474	△18.8%	167,688	17.8%
	固定負債合計	136,214	13.3%	△31,474	△18.8%	167,688	17.8%
	流 動 負 債						
	企 業 債	40,974	4.0%	6,151	17.7%	34,823	3.7%
	未 払 金	41,250	4.1%	△8,384	△16.9%	49,634	5.3%
	諸 引 当 金	27,795	2.7%	△1,479	△5.1%	29,274	3.1%
	そ の 他 流 動 負 債	3,076	0.3%	△1,811	△37.1%	4,887	0.5%
	流動負債計	113,095	11.1%	△5,523	△4.7%	118,618	12.6%
	繰 延 収 益						
	長 期 前 受 金	612,621	60.0%	740	0.1%	611,881	65.1%
長期前受金収益化累計額	△439,451	△43.0%	△20,227	△4.8%	△419,224	△44.6%	
繰延収益計	173,170	17.0%	△19,487	△10.1%	192,657	20.5%	
負債合計	422,479	41.4%	△56,484	△11.8%	478,963	50.9%	
資 本 の 部	固 有 資 本 金	35,033	3.4%	0	0.0%	35,033	3.7%
	再評価組入資本金	1,885	0.2%	0	0.0%	1,885	0.2%
	繰 入 資 本 金	1,097,249	107.4%	23,216	2.2%	1,074,033	114.2%
	組 入 資 本 金	90,601	8.8%	0	0.0%	90,601	9.7%
	資 本 金 計	1,224,768	119.8%	23,216	1.9%	1,201,552	127.8%
	剰 余 金						
	繰越利益剰余金	△740,126	△72.4%	83,594	10.1%	△823,720	△87.6%
	当 年 度 純 利 益	114,461	11.2%	30,867	36.9%	83,594	8.9%
	剰 余 金 計	△625,665	△61.2%	114,461	15.5%	△740,126	△78.7%
	資本合計	599,103	58.6%	137,677	29.8%	461,426	49.1%
負債・資本の部合計	1,021,582	100.0%	81,193	8.6%	940,389	100.0%	

5 審査の結果

(1) 審査意見

令和4年度は、前年度末に内科医師1名と小児科医師1名が退職し、4月から新たに医師1名を加え、医師は1名減の3名体制となった。また、前年から診療科の呼称を「内科」から「総合診療科」に改め、乳幼児を含む小児科としても診療を行っている。

一般的に、健康上の問題の8～9割は総合診療医が対応可能といわれており、必要に応じて最適な専門医や医療機関を紹介、連携することもできるので、受診する町民としては、満足度が高く再診につながるものと考ええる。

しかしながら、令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響は色濃く広がり、病院事業にも様々な影響を与え続けた。現場では対応に追われ、職員は体調管理や感染防止策の徹底に努める中、機能の充実も図っているが、現状では、まだ町立病院が目指す本来の医療のかたちを確立したとはいえ、令和2年度に行った病床転換を始めとした改革が実を結ぶのは、これからの経営如何である。

町立病院を受診する患者の細かな変化や訪問診療においては、家族の望むところを酌みとった診療を施すことが、地域医療に求められているものであり、経営安定化の実現には欠かすことはできないと考える。

一方で、病院内の設備は老朽化が進んでおり、特に配管設備については経年による劣化があることから、有利な企業債等、財源の検討を行い、負担軽減に努めつつ、適正な病院環境を維持することを期待する。

令和4年度は、入院、外来とも近年において最高額の経常収益となった。これは、新型コロナウイルス感染症による発熱外来の受診増やPCR検査の実績も大きく影響しているが、院長をはじめ、病院職員が一丸となって「地域の人を治し支え、その人らしい生活を支援する」という方針のもと、包括的医療を実践する総合診療病院として、地域に根差した医療に取り組んだ努力の賜物と高く評価する。

結びに、今後も、地域医療の要として、経営の安定化と「治し支える医療」の実現に向け、公立病院としての役割を果たすよう努力することを願う。

(2) 審査意見の総括

令和4年度南幌町病院事業会計の決算報告書及び事業決算書並びに附属書類は関係諸帳表により検証した結果、それぞれ関係法令に基づいて作成され、その計数は適正に表示していると認められる。